



Vol. 5 / Serial
No. 104

2014. 12. 15.
(8pgs)

Copyright (c) 2014 by Bosai Plus. All rights reserved.

■ CONTENTS ■

- P. 1 <特別企画:
災害に強い日常生活>
“そのとき”に備える「日用品」で
周りを固める防災
 - P. 2 <“そのとき”に備える日用品>
スタイリッシュな
ポータブル・バッテリー『QUBE』
 - P. 4 <“そのとき”に備える日用品>
火の用心、防犯巡回に
USC「ハンズフリーLEDキャップ」
 - P. 5 [話題を追って 1]
神戸市、震災写真1000点公開
～防災学習に活用を～
[話題を追って 2]
お天気10大ニュース
 - P. 6 [防災を読み解くキーワード]
・国立国会図書館「ひなぎく」
・防災専門図書館
 - P. 7 ClipBoard ～着信あり!
災害・防災情報リンク集
- <特設コーナーへのリンク>
★2014年12月/2015年1月の
防災2カ月イベントと災害カレンダー

各ページの青文字をクリックすると
情報源へジャンプします。



www.bosai-plus.info

Bosai Plus ホームページでも、いろいろ
ご活用いただける話題を提供しています。
ぜひ「お気に入り」にお加えください。

《特別企画:災害に強い日常生活》

日常生活の防災イノベーション… “そのとき”に備える「日用品」

災害への備えへの心理の壁を、構えることなく乗り越える法——



「国民の73.7%が災害リスクエリアに居住」(国土交通省資料)し、「地球温暖化に伴い稲妻の発生回数は今世紀末には50%増」(米国の研究者グループ)と予測される21世紀は災害の世紀——災害への備えが“日常生活のインフラ”となったいま、例えば情報機器を日常的に停電から守る「QUBE」(本文参照)の付加価値は高まる(画像クリックで拡大画像を表示)

【より安全・安心、そして快適・おしゃれな日用品で周りを固める「防災」】

●災害への備えへのアプローチ——「もしも」を「いつも」に変えてみる

災害が起こってから「備えていればよかった」というのは遅い……しかし、事前に災害に備えることは、実は心理面でもコスト面でもハードルが高いことも現実だ。日々の生活のなかでは、いつ起こるかかわからない災害に備えての出費と比べれば、ローンの支払いや子ども部屋の建増し、欲しい車、欲しいスーツ、旅行などなど、目先の出費優先順位が高い競合アイテムが少なくないからである。

そのうえ人には、災害や事故について、根拠なく「自分だけは大丈夫」と思い込みたがることで不安とバランスをとるといふ心理が働くのだそう(心理学で言う「正常化の偏見」)。

それならば、だからこそ……ということで近年(とくに東日本大震災後)注目されている考え方が「もしも」に備える「いつもの防災」である。「いつも備える」は「とくに防災を意識しないけれども、日用品を選ぶときに、ちょっと防災を考えてみる」という姿勢からスタートする。

(>>NHK「備える防災」: 渥美公秀・大阪大学教授「イツモ防災とは?」)

もちろん、自分が住む家や職場の耐震化や室内の家具転倒防止、安全空間を確保するための家具の配置などは「いつもの防災」の最たるもので、これは「いつも命を守る」ことに通じる。とくに小さなお子さんやお年寄りのいる家庭では、その環境づくりには別格扱いで努力すべきであることは言うまでもない。建物の構造・室内の空間が安全に配慮されていることを前提に、本企画では日常生活のなかでふつうに活用しながら、いざというときにも役立つアイテム事例や発想法をケーススタディとして取り上げてみる——

●「文明の進化とともに災害も進化する」——情報遮断という被災状況も

パソコンの例で話を進めよう。デスクトップタイプはもちろん、ノートタイプでも、パソコンを使うときはコンセント(電源タップ)につなぐ。ノートパソコンなら、バッテリーを充電してから持ち運ぶ。そこで万が一、災害が起こって突然停電したら……デスクトップタイプは使えなくなり、保存していないデータは消える。ノートパソコンもすぐに充電が切れてしまう。スマホ、タブレットPCも充電しないことには使えない、テレビも見られない、これまで便利に使っていた機器類が使えなくなり、情報から遮断される……

QUBE



「QUBE」はコンセントにつないだまま使用することで、パソコンなどほかの外部機器（100W未満）を動かしながら同時に「QUBE」自らが充電、いつでも充電完了状態だ（クリックで拡大図版を表示）



電源につないで同時に給電&充電 / 停電によるデータ損失回避（画像クリックで拡大表示）

【バッテリー容量 240Wh】	
使用機器	満充電時使用可能時間
10W機器	20 ~ 25 時間
40W機器	4.5 ~ 5 時間
65W機器	2.5 ~ 3 時間
80W機器	2 ~ 2.5 時間

ADD-SL-001-M		
バッテリー	材料	鉛
	容量	12V/20Ah (240Wh)
入力	AC	100V
	DC	12V / 24V
電源スイッチ		前
出力	AC100V	2port
	DC5V (USB)	1port (2.1A)
定格出力電力		100W
周波数		50/60Hz
照明		3W LEDランプ
機能UPS機能		○
質量		8.5kg
サイズ (高さ+幅+奥行)		223×195×274mm
充電時間		8時間 (5時間まで80%充電可能)
充電方法		電源内蔵
付属品		充電用ACコード 充電用DCコード 4SA型セーゾー

「QUBE」～各使用機器による使用時間の目安と製品仕様（画像クリックで拡大表示）

「文明の進化とともに災害も進化する」という。災害の圧倒的な外力の脅威からの被災とともに、情報化された社会での災害は、情報遮断という“被災状況”をもたらす。

●阪神・淡路大震災から20年 ICTは“ブラックホール”を解消したか

大きな災害が起こると、被害が大きければ大きいほど被災情報は出てこないと言われる。2015年1月17日に発災20年を迎える阪神・淡路大震災（1995年）では、冬の早朝の発災ということもあって、当初は被災地周辺の比較的軽微な被害情報しか入って来ず、国や自治体、防災機関（消防・警察、自衛隊など）の救助・救援・応援体制が整わず初動対応が遅れたという見方がある。

当時はパソコンや携帯電話はそれほど普及しておらず、地震発生とともに停電や電話の不通・錯綜などが起こった。情報伝達手段が失われ、被害情報がブラックホールのように被災地内に閉じ込められたのだ。

パソコンや携帯電話・スマホ、タブレットPCが飛躍的に普及したいまは、20年前の情報のブラックホール化は考えにくくなった。しかし、こうしたICT（情報通信技術）、情報機器が活きるのは、通電・充電されているからこそであることを忘れてはならない。

私たちが日常便利に使っている情報機器は電力が常に供給され、充電されているからこそ使えるのであって、いったん停電となると、私たちは一挙に“情報弱者”となる。

ポータブル・バッテリー『QUBE』 ——機能も設計思想もスタイリッシュ

このような“情報弱者化”への不安を減らしてくれる「備え」がある。しかも、あえて災害対策と構えることなく、ふだんの生活の中で自然に便利に使えるものが災害時にも活きるという「合理的な備え」——ポータブル・バッテリー『QUBE』の導入だ。

『QUBE』は、簡易UPS（無停電電源装置）機能を備えているので、日常的にコンセント（AC100V）につなげて使いながら、災害などでの不意の停電時でも瞬時（0.2秒）に回路をバッテリー電源に切り替えて停電に対応する。パソコンはそのまま使えるのでデータ消滅を防ぎ、停電後の情報入手や双方向通信機能などを維持できるのが特長だ。

また、『QUBE』はコンセントにつないだまま使用することで、パソコンなどほかの外部機器（100Vで動作する100W未満の機器。USB端子付き機器）を動かしながら同時に『QUBE』自らが充電するというバッテリーなので、いつでも充電完了状態にある。

さらに、いざ停電というときは自ら非常電源となって、パソコンやスマホ、タブレットPCの充電ができることはもちろん、明るいLEDライト（3W）を内蔵している。取っ手も付いて持ち運びが便利だから、夜間の救助・救命、避難誘導、そして応急的な避難所の照明灯といった緊急的な活用では、文字どおり“命を照らしてくれる”ことになる。

もちろん、日常的にも多目的機能は広く活かせる。アウトドアでの活用、AC100V、DC12V/24Vの2電源入力対応で、家庭用コンセントだけでなく車のシガーライターソケットからの充電も可能だ。

日常的に使える防災用品というより、災害時でも日常の延長で機能をフルに発揮する“小箱＝キューブ”という意味で、『QUBE』は、デザインはもとより、機能もその設計思想もスタイリッシュだと言っていい。

個人・家庭での導入はもとより、自治体、企業、自主防災など防災を志すあなたのデスク周りやワークステーションに『QUBE』を置くことで、あなたの防災への志はよりスタイリッシュな日常性を帯びることだろう。

▼『QUBE』：標準価格 42,000円（税別）／購入先：ヨドバシカメラ、Amazon など

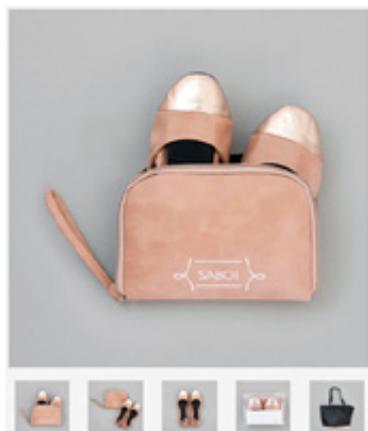
▼『QUBE』について詳細問合せは——

[アドロンテクノロジー株式会社](http://addtron.jp) Addtron Technology (Japan) Inc.

超軽量LEDモバイルプロジェクター「QUMI」シリーズをはじめ各種プロジェクター等の製造・販売で知られる。世界有数のスイッチング電源、冷却ファンメーカー、デルタ電子株式会社の販売子会社。1971年に台湾で創業したデルタグループは現在、通信機器、音響機器、映像機器、情報処理計測等、広範に渡る機器の提供とサービスで世界各地に営業拠点と製造拠点を擁する。



「いつも防災」の先駆的存在、2007年に出版されたNPO法人プラス・アーツの『地震イツモノート』。阪神・淡路大震災の被災者の声を集めて制作され、イラストレーター・香藤文平氏の“COOL”なイラストとともに新時代の防災を予感させる防災マニュアル(本文掲載リンクから無料ダウンロード可)(クリックで拡大図版を表示)



「防災ガール」のおしゃれな防災用品シリーズ「SABOI」より、女性が災害時などに徒歩帰宅するときに履き替えられるよう、折りたたみ式にしてバッグインしておける「POCKETABLE SHOES」。価格:3132円(税共)、サイズ各種。送料800円(画像クリックで拡大表示)



高知県・黒潮町缶詰製作所の製作用業の様子。現在は、「いつものもしも」試作品の研究開発、本格的な製造に向けてのスタッフ育成が進められている。循環備蓄の提案として缶詰は「毎日食べた非非常食＝日(ひ)常食」がキャッチフレーズ(写真:黒潮町ホームページより)(画像クリックで拡大表示)

もしもの時のデザイン—— 「災害時に役に立つ物や心のデザイン」

●機能美とデザインを志向で 防災の新時代幕開けの予感

凸版印刷が100周年記念事業の一環で2000年に設立した「印刷博物館」(東京都文京区)で先ごろ(9月～11月)、パッケージデザイナーの作品を集めた「もしもの時のデザイン～災害時に役に立つ物や心のデザイン」展が開催された。大地震や二次災害時などで役立つパッケージデザインを、生活者としての視点から考えるというもの。

そこに展示された作品には、不燃紙と緩衝材を使った防災頭巾になる封筒、いざという時は中身がおしゃれな防災頭巾に変わるサブバッグ、サランラップ状に引き出して折って組み立てる紙食器、地震時の身を守る基本行動を多言語でコンパクトにまとめた訪日外国人向けポケットティッシュなどがあり、日用品としても使える災害対策の多彩なアイデアが、洗練されたデザイン・かたちとなって展示されていた。

このように、防災面での「日用品」であれば、いつもそばに置いておいて“そのとき”に備えられることがポイントになることから、デザイン性・機能性が求められる。その意味で、本紙(2014年09月15日号)で取り上げたおしゃれな防災をめざす「防災ガール」の防災グッズ・シリーズ「SABOI」はピッタリ。例えば、デートやショッピング中に「地震!」、交通機関が止まった……そんなときに避難したり、徒歩帰宅するために履き替えられるよう、折り畳み式にしてバッグインしておけるようにした「POCKETABLE SHOES」がいい。平時でも歩きやすいシューズに履き替えたいことはあるので、いつも持ち歩ける折りたたみフラットシューズというわけだ(左写真参照)。まさに機能美とデザインへの志向が、防災の新時代の幕開けに一役買う予感がする。

[>>防災ガール](#)

●「コツコツ」と、「ついでに」で、マイホームを“防災要塞”化

「災害に強い日常生活」の“第一人者”とも言えるのが危機管理アドバイザーとして講演の機会も多い国崎(くにざき)信江さん(危機管理教育研究所代表)だ。国崎さんも「防災で重要なのは、生活に定着させて習慣化していくこと」だとして「コツコツ防災」を薦めている。

例えば、防災に充てる費用を決めて年間のスケジュールを立てる。毎月の防災予算を3000円と決めたら、そのなかでできることを積み重ねていく……毎月ガラスの飛散防災フィルムを購入、1月は食器棚ガラス扉、2月はキャビネットのガラス面、3月はリビング窓ガラス……というふうに習慣的にコツコツと積み重ねていくことで、着実にマイホームの「防災要塞化」ができる。

また、インテリアを楽しみながら安全性を高める「安全な素材選び」や「ついでに防災」を薦める。「安全な素材選び」は文字どおりだが、日々の買い物で一考すれば生活の安全性がぐんと高まるはず。「ついでに防災」は、「そのうちやろう」で悔いを残す前に、「ついでに」……例えばスーパーの特売日に水や備蓄缶詰をついでに余分に買って備蓄に回すというもの(使いながら余分を備蓄在庫にする＝国崎さんは「家庭内流通備蓄」と呼ぶ)。

[>>NHK「そなえる防災」:国崎信江さん「楽しみながら継続する防災の知恵」](#)

●「非常食＝日(ひ)常食」——最悪・津波高34m 黒潮町の「無印缶詰(無印良品)」

ところで、南海トラフ巨大地震で最悪34mの津波襲来が想定された高知県黒潮町(第三セクター・株式会社黒潮町缶詰製作所)は、株式会社良品計画の「無印良品」との連携で、黒潮町の食材であるマグロなどを缶詰にした商品「いつものもしも」を2015年4月から発売する。

「無印良品」は、冒頭の「いつも防災」を実践する商品開発を行い、ふだん使いできるモノを防災用品として提案している。黒潮町は、34mの津波で有名になったことを逆手とするまち起こしで、災害時には備蓄にもなる缶詰で「防災のまち」活性化の起爆剤にしようというもの。このプロジェクトには「いつも防災」ではなく、「レジリエント(負けない、しなやかな)防災」の称号を与えて称えたいところだ。

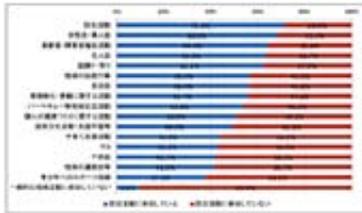
最後に本紙は「ついでに防災」として、「ついでに(?)」ちょっと一杯、安全・安心居酒屋をお薦めしておこう。迷路のような暗い通路、狭い出入口の居酒屋での一杯は本能的に避けよう……営業妨害? いえいえ、そんな居酒屋さんは災害対策をしっかりしていただかないとネ!

[>>NPO法人プラス・アーツ:地震 ITSUMO](#)

[>>良品計画:「いつものもしも」無印良品ネットストア](#)

[>>高知県黒潮町:「缶詰」で暮らしを守る食づくりの取り組み](#)

“火の用心”、“見守り”から「地区防災計画制度」へ ——防災・防犯まちづくりを照らす「キャップ(帽子)ライト」



2014年防災白書より「一般的な地域活動(地縁活動)と防災活動との関係」よりアンケート調査結果(画像クリックで拡大図版を表示)

「2014年版 防災白書」は、大規模災害では行政機能に限界があることが明らかとして、防災・減災に「地域コミュニティの力を効果的に活用していくことが不可欠」と指摘、住民や地元企業との連携強化を訴えている。内閣府のアンケート調査によると、地域の「防犯活動」に参加する人のうち71.1%が防災活動に参加、「女性会・婦人会」参加者では68.6%が、「盆踊り・祭り」では62.1%が防災活動にも参加しており、「一般的な地域活動に参加していない」と答えた人の防災活動への参加率は9.6%にとどまる。つまり、防犯活動と防災活動、さらには高齢者・子どもの見守りなど、地域が連携・合体して「地域社会の安全・安心を図る」ことが望まれる。

こうした動きを背景に、災害対策基本法の改正で2014年4月から導入された「地区防災計画制度」の普及が期待されている。「地区防災計画制度」とは、地域住民・企業・自主防災などが垣根を超えて一緒に自発的に防災計画をつくり、自治体の地域防災計画に反映させて行政との連携を強化しようという新たな安全・安心社会への取組みだ。

このような大きなうねりの端緒は、“火の用心”や高齢者・子どもの見守りなど、日常的な防災・防犯活動にあることは確かだろう。『“そのとき”に備える日用品』としては、日常的な安全・安心コミュニティづくり活動を支えるキャップ(帽子)をケーススタディしてみる。

●ヘッドライト代わりにハンズフリー「LEDキャップライト」、しかも充電式(USB、AC)

株式会社ユニバーサルセーフティクラブ(USC)の『防災用ハンズフリーLEDキャップ』は、とくに夜間の活動時にヘッドライト代わりに手元・足元を明るく照らし、ハンズフリー(両手が空く)でかぶれるように開発された“光って目立って(&カッコいい)安心な”キャップ(帽子)だ。

この種の製品としては初めての「充電式」でボタン電池交換の煩わしさがなく、パソコンからUSBで充電(AC充電も可)もできるということで、消防団や自主防災会、そして防犯まちづくりの活動グループのあいだで話題となっているという。詳細は下段記事を参照していただく。

「日常生活の防災イノベーション」——災害の世紀を生き延びる私たちそれぞれの身の周りを固める日々の備えが、安全・安心な日常生活・地域社会につながる。さらにその考え方が子から孫、次世代へと受け継がれ、確かな防災・減災への大きなうねりとなることを願いたい。




消防団用LEDキャップ(USC-10)。先端部LED(白色)4個に加えて、後部の青色・赤色LED2個がカラフルに点滅、避難誘導用に便利、また後方から来る車に対して視認性を高めて注意を促すことができる(クリックで拡大図版を表示)



株式会社ユニバーサルセーフティクラブ(USC)の製品ラインナップより(クリックで拡大図版を表示)

■ USC『ハンズフリーLEDキャップ』(充電式:USB/AC対応) ——防災・防犯まちづくりを照らす「キャップ(帽子)ライト」

一般財団法人日本消防設備安全センターから「消防防災製品等推奨品」として、2014年9月に認定を受けた株式会社ユニバーサルセーフティクラブ(USC)の「ハンズフリーLEDキャップ」が、消防団や自主防災会、防犯まちづくり活動グループのあいだで話題だ。

「ハンズフリーLEDキャップ」の特徴は、キャップ先端部(ひさし=バイザー)に取り付けられたLEDがヘッドライト代わりに点灯・点滅するところにある。しかも充電式(USB/AC対応)でボタン電池交換の煩わしさがなく、この光が、“火の用心”や防犯巡回など、夜間や暗いところでの活動時に本人自身の存在を周囲に知らせ、また手元・足元を明るく照らして防災・防犯活動やその作業の安全確保を図れる。

USC「ハンズフリーLEDキャップ」は3種。「消防団用LEDキャップ」(USC-10)は先端部LED(白色)4個に加えて、後部の青色・赤色LED2個がカラフルに点滅、避難誘導で後ろからついてくる人にはわかりやすく、また後方から来る車に対しては視認性を高められる。

ほかに、先端部LED(白色)4個の「防災用LEDキャップ(リバーシブル)」(USC-20)、「防災用バイザータイプLEDキャップ」(USC-30)がある。

▼消防団用LEDキャップ(USC-10 充電式)

・防滴仕様/帽子先端部LED(白色)4個、後部LED(青色・赤色)2個/USBケーブル(別売)

▼防災用LEDキャップ(USC-20 充電式)

・防滴仕様/帽子先端部LED(白色)4個/リバーシブル/USBケーブル(別売)

▼防災用バイザーLEDキャップ(USC-30 充電式)

・防滴仕様/帽子先端部LED(白色)4個/USBケーブル(別売)

▼価格:消防団用LEDキャップ(USC-10)4,800円(税別)ほか

▼詳細問い合わせは——[株式会社ユニバーサルセーフティクラブ](http://www.usc-japan.com)

●話題を追って[1]:阪神・淡路大震災20年

防災学習に——阪神・淡路大震災『1.17の記録』、写真1000点 神戸市職員が震災直後に撮影した記録写真から約1000点を公開・提供

阪神・淡路大震災の発災から来年(2015年)1月17日で20年になるのを前に、神戸市は去る12月9日、阪神・淡路大震災の記録写真をオープンデータとして提供するサイト「阪神・淡路大震災『1.17の記録』」を公開した。これは、市が保有する関連資料・データを広く一般に活用してもらう「オープンデータ」の取り組みの一環。

同サイトでは、阪神・淡路大震災発災直後や復旧・復興の様子など約1000点の記録写真を閲覧でき、また、オープンデータとして提供していることから自由に2次利用ができる(一部2次利用不可がある)。市はこれらの写真データを、震災の経験や教訓を継承する防災学習などのために活用してほしいとしている。

写真は主に、市広報課職員が撮影した約1万4700点から選ばれた。データの検索は、「すべて」のほか、市内9区ごとのエリア分類で、また住宅・ビル、鉄道・駅、道路、公共施設、航空写真、さらに火災、液状化、そして避難所、仮設住宅など16のカテゴリから選択することで絞り込み検索ができる。また、市内13カ所の発災直後の様子から復興の過程などを定点撮影したのが見られる。

サイト内の画像と画像情報のダウンロードができ、IT事業者向けにすべての画像情報を、CSV形式やRDF形式で一括ダウンロードする機能もある。



神戸市が一般向け活用に向けて公開した「阪神・淡路大震災『1.17の記録』」より「長田区のJR新長田駅東口(1995年1月18日撮影/写真コード f106)」(画像クリックで拡大表示)

余談だが、兵庫県は阪神・淡路大震災から20年となる2015年1月17日に向けて展開する「県民総参加事業」について従来の「震災20周年」の表記を改めて「震災20年」に統一している。「周年」は誤りではないが、祝い事に使われることが多く、「多数の死者を出したことへの違和感がある」との声に配慮した。県は「『周年』は誤りではないが、多くの人に受け入れてもらうため」としている。

[>>神戸市:「阪神・淡路大震災『1.17の記録』」オープンデータサイト](#)

●話題を追って[2]:日本気象協会「2014年 お天気10大ニュース ランキング」

関東地方の2月の大雪が第1位——御岳噴火降灰、8月豪雨も 気象予報士が選ぶ2014年の「お天気ニュース」 あなたの「印象」と合ってる? 合ってない?

2014年もいよいよ押し詰まって——日本気象協会が選ぶ「2014年 お天気10大ニュース ランキング」。日本気象協会によるこの発表は12月9日で、11月までの情報から選定した結果だというからちょっと気が早い観もあるが、参考ランキングとして紹介する。同ランキングは日本気象協会所属の気象予報士127名によって決定される。日本気象協会が取り扱う気象に関する情報やニュースから、「2014年(11月まで)にとくに印象に残ったものを選んだ。その結果——

▼1位: 関東甲信を中心に2週連続の記録的な大雪

2月の関東甲信地方を中心とする記録的な大雪。7日から9日にかけては東京都心で27cm、千葉市で観測史上1位となる33cmの積雪。14日から16日にかけては山梨県甲府市で114cmの積雪。孤立状態に陥った地域や死者も出て、各地で大きな被害が発生。

▼2位: 御嶽山噴火、上空の風に流され甲府でも降灰を観測

御嶽山(長野県・岐阜県境)で9月27日11時53分に噴火が発生。噴火による火山灰は風に流され、御嶽山から約100km離れた甲府気象台で降灰を観測。死者57名、行方不明6名(2014年10月23日現在)という戦後最悪の火山災害。

▼3位: 西日本各地で8月に豪雨

8月上旬は四国地方を中心に記録的大雨。中旬・下旬は北日本・西日本で大雨。8月20日に広島市で大規模土砂災害が発生、多数の犠牲者。気象庁は「平成26年8月豪雨」と命名。

以下、4位「東京で大粒のひょう」、5位「台風第18号、第19号 2週連続で上陸」、6位「沖縄・三重・北海道、1年間に3カ所で大雨特別警報」、7位「8月、西日本の大雨と日照不足 11年ぶりの冷夏」、8位「ひまわり8号打ち上げ成功」、9位「日最高気温ランキング、北海道がトップ10を独占」、10位「皆既月食 各地で赤い月を観測」……ついでに、「2014年の天気を表す漢字」は、気象予報士によるトップ3が「災」「雨」「雪」、一般公募トップ3が「雨」「荒」「曇」だった。

[>>日本気象協会:「2014年 お天気10大ニュース ランキング」](#)



「2014年 お天気10大ニュース ランキング 1位」は「関東甲信を中心に2週連続の記録的な大雪」(写真:日本気象協会ホームページより)(画像クリックで拡大表示)

【防災を読み解くキーワード】

●国立国会図書館「ひなぎく」と「防災専門図書館」

本年(2014年)10月、国立国会図書館は、所蔵する「東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」に、公益社団法人 全国市有物件災害共済会が運営する「防災専門図書館」(東京都千代田区)所蔵の東日本大震災および福島第1原子力発電所に関する資料(図書、CD-ROM等)の書誌データを追加したと発表した。改めて、国立国会図書館の「東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」と「防災専門図書館」についてキーワードとして紹介する。



国立国会図書館の「東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」ホームページより(写真クリックで拡大表示)

〈国立国会図書館「東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」〉

国立国会図書館では、東日本大震災の記録や教訓を次世代に伝えることを趣旨として、「東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」を昨年(2013年)3月から公開している。

この「ひなぎく」は国立国会図書館だけでなく他の公的機関や報道機関、教育機関、NPO・ボランティア団体、そのほか一般企業など、さまざまな民間団体が連携し、保有する震災に関する音声・動画、写真、文書などの記録を一元的に検索できるポータルサイトとなっている。

具体的には、図書館や研究機関では、科学技術振興機構「J-STAGE」、神戸大学附属図書館「震災文庫」、国立情報学研究所「CiNii Articles」「JAIRO」、東北大学災害科学国際研究所「みちのく震録伝」、日本原子力研究開発機構「JAEA図書館OPAC」、ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」、東北学院「東日本大震災の記録 Remembering 3.11」など。

報道機関では、河北新報社「河北新報 震災アーカイブ」、日本放送協会「NHK東日本大震災アーカイブス」「NHK東日本大震災音声アーカイブス」、フジテレビジョン・FNN(フジニュースネットワーク)「3.11 忘れない FNN東日本大震災アーカイブ」など。

また、グーグル「未来へのキオク」、ヤフー「東日本大震災写真保存プロジェクト」のほか、各種団体から、東日本大震災アーカイブ福島協議会「東日本大震災アーカイブFukushima」、日本赤十字社「赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ」、国立女性教育会館「NVEC女性復興支援アーカイブ」などが連携。2014年12月1日時点での「ひなぎく」検索対象データベースは42となっている。

「ひなぎく」はパソコンからだれでも無料で利用可能(一部有料)。検索画面上でキーワードを入力すれば、一括で検索することができる。また、検索結果は資料種別だけでなく、時間や場所からも分かるように地図上やタイムライン(時系列)上でも表示される。

これらのコンテンツを一括検索できることで、個人の防災啓発、地域・学校での防災教育をはじめ、行政の防災・減災対策や被災地復興支援、学術研究などでの活用が期待される。

国立国会図書館では震災に関する記録を所有する人に連携の呼びかけも行っている。

[>>国立国会図書館:「東日本大震災アーカイブ\(愛称:ひなぎく\)」](#)

〈防災専門図書館〉

全国市有物件災害共済会の「防災専門図書館」は、地震・風水害などの自然災害、火災・環境問題・原発事故・交通災害・鉱害・戦災などの人災についての資料を収集している専門図書館だ。これらには地域防災計画などの災害対策だけでなく、心のケアやボランティアなどの周辺領域も幅広く含まれる。

国立国会図書館の「ひなぎく」では、防災専門図書館が所蔵する資料のうち、東日本大震災および福島第1原子力発電所に関する書誌データの検索が可能となっている。

公益社団法人全国市有物件災害共済会とは、地方自治法の規定に基づいて、全国の各市が「地方自治の発展と住民福祉の向上をめざし、相互救済事業を実施する」ために共同で設立した公益的法人。「セーフティネット」の役割を担うため防災等に関するさまざまな事業を実施している。「防災専門図書館」の運営もそのひとつだ。

「防災専門図書館」の所在地は東京都千代田区平河町の日本都市センター会館8階。無料で利用でき、開館日は月～金曜日、午前9～午後5時の開館、休館日は土・日・祝日と年末年始。館外貸し出しは関係者のみだが、蔵書検索・閲覧は公開されている。

天然災害だけでなく人為災害に関する資料・図書も収集対象にしており、江戸・明治時代の瓦版、絵図も収集している。

[>>防災専門図書館\(全国市有物件災害共済会\)蔵書～ひなぎく新規追加コンテンツからの紹介\(18\)\(国立国会図書館、2014/10/15\)](#)

[>>防災専門図書館](#)

[>>防災専門図書館蔵書検索](#)

[>>防災情報新聞:防災専門図書館](#)



上:全国市有物件災害共済会の都市センター会館、下:同会館8階にある防災専門図書館の書架(写真:防災情報新聞提供/写真クリックで拡大表示)

ClipBoard 着信あり!

[ClipBoard]は、インターネット上の玉石混淆の情報の大海のなかから、「これは《Bosai Plus》読者に広く知らせたい」という情報の“玉”をみなさまに代わって見つけ出し、その情報へリンクするページです。
*見出しの青文字をクリックすると情報源へジャンプします。
*リンク先での記事削除などの理由で「リンク切れ」となる場合がありますのでご了承ください。

《新着情報》

【官庁情報】

▼内閣府(防災担当):改正災害対策基本法の初適用による立ち往生車両の排除

(2014.12.05.)

大雪のため国道192号において立ち往生車両が発生したため、国土交通省四国地方整備局では、本日5時20分から通行止めを行い、8時40分には災害対策基本法第76条の6を適用し、立ち往生車両の撤去作業を実施……

▼国土交通省:土砂災害危険箇所の行政の体制整備に係る緊急点検結果と対応方針

(2014.12.12.)

本年8月に広島市で甚大な土砂災害が発生したことを受け、全国の土砂災害危険箇所(約53万箇所)等における警戒避難体制の緊急点検を行うよう都道府県へ要請、緊急点検の結果と当面の警戒避難体制の改善に向けた取り組みについてとりまとめた……

▼国土交通省:洪水対策でも最大外力想定 治水の気候変動適応で骨子案

(建設通信新聞:2014.12.02.付け記事より)

国土交通省は、水災害分野における気候変動適応策のあり方について、中間とりまとめ(骨子案)をまとめ、11月28日に社会資本整備審議会河川分科会の「気候変動に適応した治水対策検討小委員会」に提示した。年度内に最終報告(答申案)をまとめる……

▼国土交通省:頑張るまちづくり法人を募集します! 第4回まちづくり法人国土交通大臣表彰の募集

(2014.12.01.)

「まちづくり法人表彰」は、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるまちづくり法人が中心となった先進的な取組を奨励・普及するため、地方公共団体や関係団体の協力のもと「まちづくり月間」関連行事として、2012年度に創設された国土交通大臣表彰制度……

▼気象庁仙台管区気象台:吾妻山 火山性微動を観測、警戒レベル2に引き上げ

(毎日新聞:2014.12.12.付け記事より)

仙台管区気象台は12日、福島市の吾妻山(あづまやま=一切経山、1949m)の噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げた。同日朝に比較的長時間の火山性微動が観測されるなど、ここ数カ月で火山活動が活発化しているため……

▼気象庁:地上観測地点「東京」の移転

(2014.12.03.)

気象庁は地上観測地点「東京」を気象庁本庁敷地内から北の丸公園へ移転し、併せて気温等の平年値を更新する……(参考:産経新聞2014.10.30.付け記事:“寒く”なる東京 計測値「大手町→北の丸公園」移動で“最低気温1.4度低下”の不可思議)

▼環境省:日本国内における気候変動予測の不確実性を考慮した結果

(2014.12.12.)

環境省と気象庁は、2015年夏頃に予定している政府全体の「適応計画」策定に向けた取組みとして、日本国内における気候変動による影響の評価のための気候変動予測を行っている。このたび、不確実性を考慮した年平均気温と年降水量の予測結果の取りまとめや新たに最深積雪や降雪量の算出等を行った……

【自治体情報】

▼秋田県由利本荘市:県内初の津波避難タワーが完成 由利本荘市西目

(秋田魁新報:2014.12.02.記事より)

秋田県由利本荘市が同市西目町の海士剝(あまはぎ)公民館駐車場に建設していた県内初の津波避難タワーが完成した。緊急時に避難者が集まるステージ部分に60人を収容できる……

▼東京都:東京都の海上公園、海抜表示板など設置 防災強化

(日本経済新聞:2014.12.02.付け記事より)

東京都は東京湾に面した「海上公園」の防災機能を強化する。津波の危険性を知らせる海抜表示板を来年度末までに全公園に設置するほか、非常時に来園者が円滑に避難できるよう、出入り口や道の拡幅を進める……

▼東京消防庁:ストーブを使用中の火災に注意! 電気ストーブの割合が7割以上

(2014.12.05.)

過去5年間のストーブの火災発生状況をみると、748件の火災で48人が死亡。このうち電気ストーブから発生した火災は538件で、ストーブから出火した火災の7割以上(71.9%)を占め、死者は33人(68.8%)……

▼神奈川県横須賀市:「くらしの安全・安心カレンダー」を配布

(2014.12.01.)

12月1日(月曜日)から「くらしの安全・安心カレンダー」を配布する。災害やトラブルによる被害や生活への影響をできるだけ小さくするには、日頃から備えや正しい知識を習得しよう……

▼長野県伊那市:緊急時に活用条件 伊那市が公共施設の屋根貸しへ

(長野日報:2014.12.02.付け記事より)

伊那市は1日の市議会全員協議会で、太陽光発電のパネル設置用のスペースとして、市有施設の屋根を民間事業者に貸し出す方針を示した。対象は市が避難所に指定している施設で、災害発生時など緊急時に非常用電源として活用できることを条件……

▼兵庫県:1.17「ひょうご安全の日のつどい」概要決まる

(2014.12.05.)

兵庫県は、阪神・淡路大震災20年となる来年1月17日に実施する「ひょうご安全の日のつどい」の概要を決めた。「1.17は忘れない」をテーマに、6434人の犠牲者を悼み、安心・安全の社会づくりを全国と世界に発信する……

▼神戸市:「阪神・淡路大震災『1.17の記録』」を公開

(2014.12.09.)

神戸市は、阪神・淡路大震災の記録写真をオープンデータとして提供するサイト「阪神・淡路大震災『1.17の記録』」を公開した……(本紙P.5参照)

▼広島市:広島土砂災害 市が被災地の復興ビジョンを作成

(日経BP:2014.12.11.付け記事より)

広島市は、2014年8月に大規模土砂災害が発生した被災地の復興計画の基礎となる「2014年8月20日豪雨災害 復興まちづくりビジョン」の素案を公表……

【報道クリップ】

▼時事通信:防災訓練実施は35%＝土砂災害の危険箇所 国交省など調査

(2014.12.12.)

全国の土砂災害の恐れがある場所のうち、住民の避難誘導など、市町村による防災訓練が行われたことがあるのは35%にとどまることが12日、国土交通省などの調査で分かった……

▼河北新報:震災の教訓世界へ 防災記事英訳版を公開

(2014.12.11.)

東日本大震災の教訓を検証する河北新報の連載企画「わがこと 防災・減災」の英訳版が11日、河北新報オンラインで公開される。来年3月に仙台市で国連防災世界会議が開かれるのを前に、被災現場で集めた貴重な証言を国際社会に訴えやすい形であらためて発信する……(英語版)

▼産経新聞:非常電源や携帯で備え 災害に弱いIP電話

(2014.12.10.)

徳島県の大雪被害による停電で、インターネット回線を使うIP電話が不通となり、災害時のもろさを露呈した。ケーブルテレビや光回線網を使ったIP電話は全国的に利用が増えており、家庭での備えが必要なことを示した……

▼読売新聞:西日本大雪…3人死亡、徳島185世帯が孤立

(2014.12.07.)

西日本各地は6日、この冬一番の寒さとなり、山間部を中心に大雪となった。徳島県と福井県で計3人が死亡するなど、各地で影響が出た……

▼日本経済新聞:乗客300人、8時間閉じ込め 雪で停電のJR仙山線

(2014.12.03.)

雪による停電のため、山形市の山中で立ち往生が続いていたJR仙山線の山形発仙台行き快速列車(6両編成)は現場から約4km引き返し、3日午後4時ごろに山寺駅に到着した。乗客約300人が約8時間にわたって閉じ込められ……

▼日本経済新聞:地震の被害規模、即時に推定 政府がシステム開発へ

(2014.12.01.)

政府は地震が発生した際、被害規模を即時に推定できるシステムの開発に乗り出す。2018年度までに地震の被害については発生後1分以内、津波の遡上は地震発生から数分後に把握できる体制を目指す。独立行政法人の防災科学技術研究所や国土交通省などが中心となって開発を進める……

【海外情報】

▼The Huffington Post:いま、飢えている国はここだ 2014飢餓マップ

(2014.12.09.)

国際連合世界食糧計画(WFP)は、2014年版の世界の飢餓状況を可視化した地図「ハンガーマップ」を発表した。栄養不足人口の割合により、国ごとに5段階で色分けされている。いまだに、8億人を超える人が飢餓に苦しめられているのが現実だ……

▼CNN NEWS:台風直撃のフィリピン 死者27人に、倒壊家屋1千棟

(2014.12.09.)

フィリピンを直撃した台風「ハグピート」(台風22号)は8日、熱帯低気圧に勢力を弱めて首都マニラに接近した。フィリピン赤十字によると、この台風で少なくとも27人が死亡……

▼時事通信:今年の世界気温、過去最高も＝豪雨や洪水招く－世界気象機関

(2014.12.03.)

世界気象機関(WMO)は3日、2014年の世界平均気温が過去最高になる可能性があるとの報告を発表した。平均値を大きく上回る状態が続いており、特に海面温度の上昇が著しい。世界各地で豪雨や洪水を引き起こしているという……

▼中央日報:韓国漁船、ペーリング海で沈没…1人死亡・52人行方不明

(2014.12.02.)

思潮産業所属の遠洋漁船「501オリオン号」が1日午後、ロシア東側の海域で操業中に沈没した。事故の知らせを聞いた船員の家族がこの日、釜山の思潮産業の会議室に設置された事故対策本部で、行方不明者の名簿を確認している船員60人のうちこの日午後11時まで救助されたのは7人……

【企業・団体広報関連報道】

▼日本気象協会:「tenki.jp」初・英語日本語併記版、成田エクスプレスに登場～天気予報に加え、日本の四季情報、台風、地震情報も～

(2014.12.02.)

日本気象協会は、2014年12月1日より成田エクスプレスでトレインチャンネル天気予報の提供を新たに開始した。日本気象協会が運営する天気予報専門サイト「tenki.jp」ブランド唯一の英語日本語併記版サービスで、成田エクスプレス内のトレインチャンネルのみで提供するサービス……

▼三井不動産リアルティ「三井のリパーク」:災害時に役立つ! 防災用品・非常電源付きソーラーLED 街路灯設置

(2014.12.02.)

三井不動産リアルティ株式会社は、「三井のリパーク」大宮桜木町1丁目第3駐車場を12月1日に開設。当該事業地には、災害時や停電時に役立つ防災用品と非常電源を備えた「ソーラーLED 街路灯」を設置……

【使えるアプリ】

▼RBB TODAY:全国の河川・海岸ライブカメラをiPhoneで見られる「全国防災カメラ」

(2014.12.10.)

「全国防災カメラ」は、全国各地の監視カメラ(ライブカメラ)映像をiPhoneで閲覧するアプリ。ネット上で一般に公開されている各地のカメラ映像をまとめ、そこへリンクする。主に河川の増水や天候確認に使える……

【使えるサイト】

▼気象庁:火山登山者向けの情報提供ページ

(2014.10.10.)

気象庁では、最新の火山情報を登山者等にも迅速かつ確に提供するため、気象庁ホームページに火山登山者向けの情報提供ページを新たに設け、10月10日17時から提供を開始している……

【映画】

▼映画.com:「唐山大地震」公開延期から4年 「心の復興」目指し封切り

(2014.12.01.)

配給大手の松竹は、2011年3月11日の東日本大地震発生を受け公開延期とした「唐山大地震」を、2015年3月14日から東京・東劇をはじめ全国で順次公開することを発表した。同作は11年3月26日に公開予定だったが、唐山大地震および四川大地震を再現したシーン、被災者の救出シーンなど一部の描写が「時節柄、上映するには相応しくない」と判断し、延期……

【新刊/書評】

▼後藤一蔵・著『消防団 一生い立ちと、壁、そして未来ー』

著者:後藤一蔵(東北福祉大兼任講師)、出版社:近代消防社(近代消防新書)、発行日:2014年11月、定価:本体1100円+税(送料164円)

「地域の防災を担う大きな柱として位置づけられる消防団。東日本大震災では、多くの消防団員が犠牲になり、自らが被災者でありながら、家族、職場、団員仲間との板ばさみのなかで、長期間にわたって活動を継続せざるを得なかった。自然災害に対して、自らの身の安全と地域全体の安全・安心のため消防団はどのように向き合うべきか……」

2015.1.17 阪神・淡路大震災20年

わが国最大級の防災イベントと災害史カレンダー **Bosai Plus** [>>随時更新……ここをクリック!](#) **防災カレンダー**